

教室でできる特別支援教育

師と子どもに学んだ「王道」ステップ1・2・3

曾山先生に、「教室でできる特別支援教育」の基本的な考え方を整理していただきました。



名城大学大学院 大学・学校づくり研究科および教職センター准教授
曾山 和彦

そやま かずひこ 群馬県桐生市出身。東京学芸大学卒業、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。博士(社会福祉学) 東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事を経て現職。学校心理士。ガイダンスカウンセラー。上級教育カウンセラー。学校におけるカウンセリングを考える会代表。

はじめに 私の「現在地」

私は、全国各地の教育委員会や学校等からお声をかけていただき、先生方の前で話ができることをとてもうれしく、幸せに思っています。各地でお会いした先生方から、本誌『Hito*yume』の読者アンケートを通じて、「理論だけでなく現場の実態をふまえた指導上のポイントを示してもらえます」等の感想をいただけることも、私にとって大きな励みになっています。

私が今、このように「教室でできる特別支援教育」について考えを整理し、先生方の前に立てるのは、私を導いてくださった師のおかげです。特別支援教育の師は宮城武久先生(つばき教育研究所長)、堅田明義先生(東京学芸大学名誉教授)、教育カウンセリングの師は國分康孝先生(東京成徳大学名誉教授)、國分久子先生(青森明の星短期大学客員教授)です。

先生方には厳しく、温かく、丁寧

に寧にたくさんの方を教えたことがありました。日々の実践や研究を進めるうえで道をたがわぬよう、私はたくさんの方の教えを受けたということに、今、改めて気づき、感謝の気持ちで「いっぱい」になります。

感謝の気持ちは、18年間、学校現場でかかわった子どもたちにも「いっぱい」です。若い頃から失敗の多い私でしたので、今、成長した子どもたちの前に立つなら、「あの時はごめんね」と謝らなければいけないことも「いっぱい」。子どもたちの笑顔、泣き顔から学ばせてもらって、今、大学の教壇に立つ私がいまいます。

本稿では、本誌でこれまで連載の機会をいただいた「教室でできる特別支援教育」について、私の「現在地」をお伝えします。師と子どもに学んだ「王道」(最も正統的な道)です。「まずはこの大きく、広い道を歩こう」というニュアンスで用いる「王道」を、皆さんの考え実践と擦り合わせながらお読みください。

校内特別支援教育推進の土壌

全国各地の学校を訪問する中で、「他校に伝えたい」と感じる実践の多くには、共通して「特別支援教育推進の土壌」が整備されています。具体的には、「特別支援教育コーディネーター」「校内委員会」「個別の指導計画」の3本柱が機能しています。

この3本柱は現在、全国的にはほぼ整備された状況にある^{※1}と考えられます。しかし、校内特別支援教育推進に向け、実質的に機能しているかどうかを問われて、自信をもって「YES」と答えられる学校は果たしてどれくらいあるでしょうか。各校ともに次の3本柱の機能をチェックするといよいでしょう。

- 特別支援教育コーディネーター…管理職と連絡・調整を密にしながら体制づくりを進める。
- 校内委員会…気になる子についての相談の必要が生じた

まずは気になる子の理解



ステップ1 気になる子の理解

教室でできる特別支援教育ステップ1は、学級に在籍する気になる子の理解です。

場合、できるだけ早い時期に、短時間でも開催する。個別の指導計画…学習面、行動面等の現状と短期・長期目標が示された使いやすしい書式を工夫する。

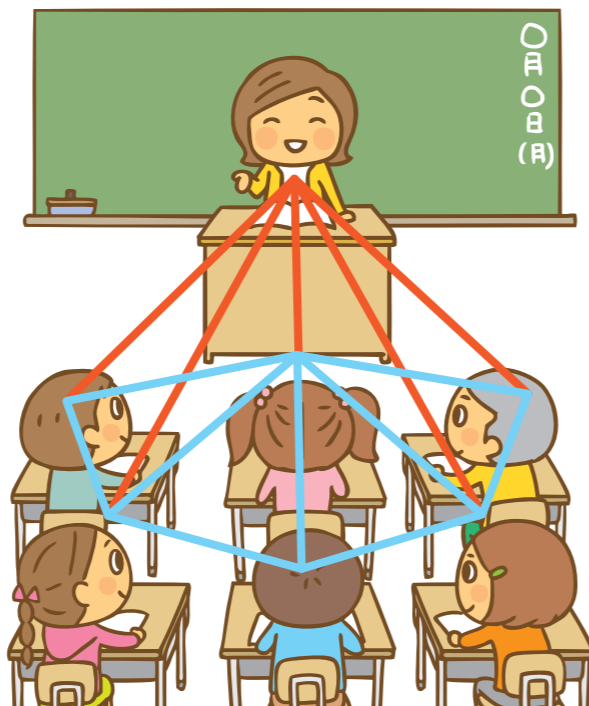
発達障害に関する理解、子どもを取り巻く家庭環境等の理解が欠かせません。特別支援教育の本格実施から7年目を迎えた現在においても、「自分は特別支援教育の専門ではないから発達障害のことはわからない」という声が、学校現場から聞こえてくる場合があります。そうした声に対して、私がいつも届けたいと思ひ、私自身、常に忘れずにいようと心に留めおいているのは次の二つの言葉です。

- 「息子の障害について理解してもらえない先生が多かったことがいけば辛かった。障害児教育が専門ではない先生方に多くの指導を求めていたわけではない。ただ息子を理解して接してほしかった」(義務教育9年間を通常学級で過ごしたアスペルガー生徒の母)
- 「教育を行う者が、教育を行う子どもについて無知のまま教壇に立つことは、子どもに失礼極まりない」^{※2}

※1 文部科学省「国公立別・幼小中高別・項目別実施率—全国集計表」『平成21年度特別支援教育体制整備状況調査調査結果』2010年
※2 杉山登志郎「アスペルガー症候群と高機能自閉症の青年期の社会性のために」学研2005年14P

なる子を含む子ども同士のトラブルが頻発するのも無理からぬところだ。
自尊感情もソーシャルスキルもともにかかわりを通して育まれるものです。それ故、さまざまな手法を用いて、教師と子どもをつなぐ「縦系」、子ども同士をつなぐ「横系」を紡いでいく。その過程を通して、子どもの自尊感情、ソーシャルスキルが育まれ、学級がどの子にとっても「居場所」になっていく……。これが、私自身の経験、

教師と子どもをつなぐ「縦系」 子ども同士をつなぐ「横系」



各地の実践から学び得た、教室でできる特別支援教育の私の「現在地」です。

3月発刊の拙著を是非お読みください。「現在地」の詳細を含め、私がこれまでに学び、感じた「教室でできる特別支援教育」の全てを整理してまとめた、「特別支援教育」に関する初単著です。

ステップ2 学級集団の理解

教室でできる特別支援教育ステップ2は、学級集団の理解です。各地の学校を訪問すると、「気になる子が学級集団に溶け込んでいる」と感じる学級に出会うことがあります。具体的には、「発言する人に身体を向ける」等の姿勢が見られ、「〇〇君の意見と違ってはくは…」と意見を伝え合えるような、ルールが定着してい



る学級です。「教育力のある集団を育てるためには、ルールとふれあい(リレーション、ホシネの関係)をバランスよく確立させることが必要」(※3)という指摘があります。この指摘に私自身のこれまでの経験を擦り合わせると、学級集団の「成長過程」は次のように整理できるのではないかと考えます。

話の仕方、聴き方等の「ルール」が学級内に定着すると、そこには安心感が生まれる。安

心感をベースに教師と子ども、子ども同士のかかわりが促され、徐々に「ふれあい」が構築される。「ふれあい」の中で、学級への所属感、個々の承認感が高まり、学級は全ての子どもにとつての「居場所」になっていく……。

教師であれば、学級のルール、ふれあい状況の把握は、日常的な観察によつてある程度可能です。しかし、教師の視線からルール、ふれあい状況が良好に見えていたとしても、子どもの視線からも同様に良好かという点、それは必ずしもそうとは言い切れません。「顔で笑つて心で泣いて」のように、内面の辛さを押し隠し、外面の良さを取り繕う子どももいる可能性があります。このように、教師の視線からだけでは捉えきれないケースも懸念されるが故に、子ども自身の声を拾い上げる学級診断尺度Q-U(※4)等の質問紙調査の併用が意味をもちます。教師による行動観察と質問紙調査等を併せ、学級集団の状態理解に努めたいものです。

ステップ3 学級全ての子ども 自尊感情とソーシャル スキルの育成

ここまでのステップ1「気になる子の理解」、ステップ2「学級集団の理解」を経ることで、通常学級における「ユニバーサル(普遍的、万人向け)な指導・支援が可能となります。

教室でできる特別支援教育ステップ3は、学級全ての子ども自尊感情とソーシャルスキルの育成です。

気になる子が在籍する学級内のトラブル等は、気になる子がその発端となるだけでなく、周りの子の不意な発言や行為等の「ちょっかい」がトラブルの引き金を引くケースも多々見られます。本誌16号にて「今どきの子ども像」として、現代に生きる子どもたちを捉えたように、「かかわりの量的不足、質的变化」の影響により、「自分にOKと言いくく(低い自尊感情)、他者とかかわる技術に乏しい(乏しいソーシャルスキル)」と感じられる子どもが多く在籍する学級内では、気に

首山先生著書のご紹介

だれでも基本がわかる! 明日からでも教室でできる!!

教室でできる特別支援教育

子どもに学んだ「王道」ステップワン・ツー・スリー



Contents

- 第1章 「教室でできる特別支援教育」の基本的な考え方
 - 現代の子ども像と「教室でできる特別支援教育」
- 第2章 教室でできる特別支援教育「王道」ステップ1・2・3
 - ステップ1 気になる子の理解
 - ステップ2 学級集団の理解
 - ステップ3 自尊感情とソーシャルスキルの育成
- 第3章 教室でできる特別支援教育「実践」へのアプローチ
 - 「これならできる!」10のお勧め実践
 - 新任の「私」に伝えられる・伝えたい7つのこと
- 第4章 紙上再現 自尊感情とソーシャルスキルを育む授業
 - 授業(中学生)めざせ!「人間関係の達人」
 - 授業(小学5年生)「友だちづくり名人」になるヒント

判型 B5変型判
ページ 120ページ 2色刷
定価 本体1,600円+税
発行 文溪堂

★首山先生の本書の出版記念講演会 開催日:平成26年3月9日 場所:名古屋駅前桑山ビル会議室8階A ご案内の詳細は 文溪堂 イベント情報 検索

※3 河村茂雄「データが語る①学校の課題」図書文化2007年74-75P
※4 河村茂雄「Questionnaire-Utilities (Q-U)」図書文化1999年